

北 どりくろあ

第124号 2026年7月1日(毎月1日発行)



ピンクと黄色のツートンカラーの車両



スイッチバック式の線路のある出雲坂根駅

きすき
木次線ストロール ②⑦

総集編

「出雲神話の伝説をたどり

『砂の器』のロケ地を巡る」

木次線ストロールの連載がスタートしたのは、2023年10月号から。取材日は9月18日月曜日、敬老の日である。備後落合駅に車を停めた。駅舎の待合室で、名物ボランティエガイドの永橋則夫さんの名調子、落合駅の歴史を聞いてから、9時20分発の木次行き始発電車に乗った。

「芸備線のように、終点まで行くつもりはないが、県境を超えていくつかの駅を訪れてみたいと思っている。」
1回目の冒頭部分にそう書いてあるのだが、結局、終点の穴道(しんじ)駅まで完走してしまった。それだけ、木次線の魅力にどっぷりとはまってしまったのである。15分ほどで油木(ゆき)駅に着く。広島県最北の駅、といっても

駅舎はなく、ホームの屋根の下に、プレハブの小さな待合室があるだけ。駅の周辺を散策したあとで、油木川沿いの国道を南下して備後落合駅を目指したのだが、列車で15分の距離なのでかなり長い。「木次線は芸備線よりも手ごわい」という印象を強くした。

途中、油木川の川辺に降りて、鉄滓(たたら製鉄で玉鋼を取った後の副産物)をいくつか見つけることができた。木次線の沿線では、その後もいろんな場所で鉄滓を採集、たたら製鉄が盛んだったことを証明＆実感した。
次の三井野原駅からは島根県で

ある。JR西日本では最も標高が高い(727m)駅である。広島県民にとっては、身近なスキーとして知られていた。現在は、残念ながらリフトは運行中止、私設のスロープのグレンデが細々と営業しているだけだった。

三井野原のことを調べていて、この地方がかつては広島県に所属していたことを知った。昭和28年に島根県に編入されたのである。

三井野原駅から出雲坂根駅の間には、全国でも珍しいスイッチバック運転の箇所がある。急勾配に対応するため、列車は進行方向を2回切り替えながら、逆Z型でジグザグに進行、その線路が三段になっていることから、三段式スイッチバックと呼ばれている。

取材したのが2023年11月20日で、観光列車の「奥出雲おろち号」が11月23日で運行終了という時期だった。人気のトロッコ列車の最後の勇姿を撮影しようとして、木次線がいちばん賑わっていた時かもしれない。

次の八川駅は、映画『砂の器』のロケで使われた駅舎だ。「亀嵩駅」として撮影されたという。『砂の器』と木次線(村田英治著)で、詳しく紹介されている。屋根が新しく吹き替えられたくらいで、駅舎は撮影当時のままだ。

八川小学校の校庭の奥に「絲原

発行：どら書房

誌面デザイン：ROUTE183
協賛：九日市愛好会